三重県図書館協会報　2020年3月25日発行

協会だより No.71

目次

第105回全国図書館大会三重大会開催！……1
トピックス～図書館をめぐる話題から～……2
令和元年度図書館活性化推進事業のご報告……4
研修会のご報告……6
新館案内……8
ブックエンド……8

編集・発行　三重県図書館協会＝津市一身田上津部田1234　三重県立図書館内　電話：(059)233-1181

第105回全国図書館大会三重大会開催！

三重県立図書館

第105回全国図書館大会三重大会を、2019年11月21日（木）、22日（金）の2日間にわたり開催しました。地方大会としては6年ぶり、三重県では初開催となった本大会は、「令和の新時代を拓く図書館～常若（とこわか）のくにからの発信」をテーマとし、盛況のうちに終えることができました。

○1日目

開会式では、大会会長の三重県知事による挨拶などの後、三重とこわか国体のマスコットキャラクター「とこまる」が駆けつけ、和やかなスタートとなりました。

第35回日本図書館協会建築賞の表彰式の後、全体会に移り、日本図書館協会小田理事長による基調報告が行われ、昨今の図書館界の動向について、写真を交えながら、話題となった映画から法改正の話まで幅広くお話しいただきました。

記念講演では、「忍者研究の最前線から地域と図書館を考える」と題して、三重大学人文学部教授の吉丸先生にご講演いただきました。冒頭では、伊賀之忍者衆「羅威堂」による演出があり、好評を博しました。講演にあわせて、会場前では「史料にみる忍者の諸相」展を行い、展示物を眺める方が多く見受けられました。

全体会終了後の懇親交流会では、講演に登場した羅威堂による忍者ショーが繰り広げられ、会場は大変盛り上がりました。参加者の皆様には、三重のグルメを味わいながら交流を深めていただき、楽しい雰囲気の中で大会1日目を終えました。

○2日目

午前・午後あわせて19分科会が行われました。報告と活発な討議による大変充実した分科会になりました。分科会の詳しい様子は、本紙6ページ掲載の「研修会のご報告」をご覧ください。

三重県立図書館が運営を担当した第4分科会児童サービス（2）では、県立図書館の閲覧室を会場とし、たくさんの本に囲まれた中で報告が行われました。昼食休憩時には、閲覧室の見学会を行い、大勢の方にご覧いただきました。

また、図書館関係団体や分科会、協賛企業による展示が行われ、多くの見学者で賑わいました。

2日間を通じて、会場外では三重の物産販売及び書籍等の販売を、全体会会場通路では「三重県内公共図書館・大学等図書館紹介パネル展」を行いました。こちらも多くの方が足を止めてご覧になっていました。

会員の皆様には、県内図書館紹介パネルの作成や当日の全体会や分科会の運営など、多岐にわたりご協力いただきました。また、多くの方々にご参加をいただき、無事に大会を終えることができました。本当にありがとうございました。

開会式の様子

トピックス
～図書館をめぐる話題から～

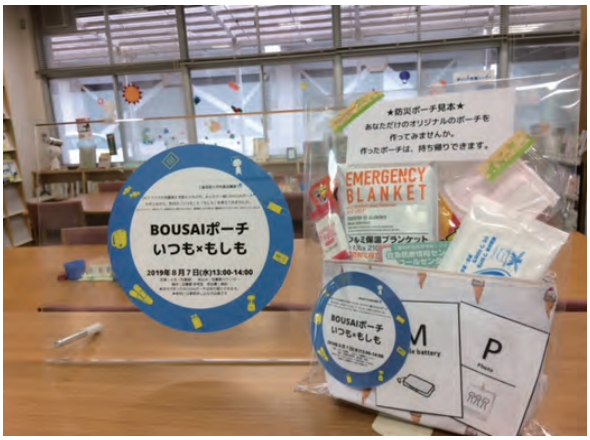
BOUSAIポーチ いつも×もしも

三重短期大学附属図書館　中澤利美

当館は、小規模大学の附属図書館で、アットホームな雰囲気が特徴です。その特徴を活かして、学生との距離感を大切にしながら、防災についての取り組みも行っています。その中から、今回は防災ポーチをご紹介します。

防災ポーチとは、普段持ち歩く小さなポーチに、もしもの時に役立つグッズを入れる簡易防災袋です。当館では、参加者それぞれが自分のポーチを作るワークショップ「BOUSAIポーチいつも×もしも」を開催しました。

当日は、100円均一ショップのポーチ、笛、ライト、コンパクトタオルや飴などとともに、常備薬、モバイルバッテリーなどのグッズを書いたアイテムカード、自分に必要な物を自由に書き込める白紙のカードを準備しました。和気あいあいとした雰囲気で、楽しく話しあいながらポーチを作りました。



BOUSAI ポーチ

自分用にカスタマイズしたポーチを作ることで、防災を自分のこととして考えてもらうきっかけになればと企画したのですが、開催してみると、参加した学生から、緊急時においても、自分以外の人を思いやる発言が多く出されるなど、想定以上に嬉しい結果も生まれ、実りの多い企画となりました。同時に、自分用を作るだけでなく、他の人のアイテムについて、お互いに話してみるという過程の大切さにも気づくことができました。

みなさんもBOUSAIポーチ、作ってみませんか。

学習支援の次なる展開

三重大学附属図書館　萩誠一

昨年度の本協会視察研修では、協会の皆さんに本学の図書館と環境・情報科学館（MEIPL）をご覧いただきました。MEIPLのように近年の大学図書館ではラーニング・コモンズを設置して、学生の主体的な学習活動を促す環境整備と大学院生スタッフによる人的支援を進めています。本学ではさらなる学習支援を進めるため、昨年4月から3Dプリンタなどの ICT周辺機器を活用して学生が創造的な活動ができる「メイカースペース」をMEIPLに設置しました。昨年10月には、熊野市文化交流センターで開催された三重大学東紀州サテライトフォーラムでVRゴーグルとドローンの実演をして、

メイカースペース

三重大学附属図書館外観

地域の方々にＩＣＴがこんなに楽しいのだよということを実感していただきました。

メイカースペース（拡大）

現在は本学の数理・データサイエンス教育を推進するため、本学地域人材教育開発機構・総合情報処理センターと連携して、数理・データサイエンス館（ＣｅＭＤＳ）の開館に向けて準備を進めています。ＣｅＭＤＳではメイカースペースのＩＣＴ機器を増強・多様化するだけでなく、信頼できる情報源の地域データを駆使して新たな「地域の発見」を促すスペースも準備しています。また、これらは学生のための空間だけでなく、広く市民や地域企業に開かれたものを目指して整備しています。

地域人材教育や情報を担当する学内組織の協力の下、大学図書館とラーニング・コモンズ、数理・データサイエンス教育施設の３館が連携することで、学生どうしが確かな情報に基づいて議論し、学びあい、理解して発見し、創造し創作していくことを目指しています。また、ここで培われた学生とその成果物が地域の文化と産業に貢献し、地域の市民や企業もＣｅＭＤＳを活用して新たな価値を創造していくことを期待してやみません。

飯高館内地域開放型図書館の取り組み

飯高管内地域開放型図書館

大瀧郁子

昨年９月、松阪市飯高町にある小中学校３校で、コミュニティスクールの取り組みとして「飯高地域開放型図書館」がオープンしました。

市立図書館から遠い地域の方にも図書館の本を利用していただきやすいようにしたいという松阪市の思いと、地域の方にもっと気軽に学校へ来てもらいたいという学校の思いが一つになり、実現したものです。飯高中学校は「ぶらり来（ライ）ブラリー」宮前小学校は「みんなの堂山Ｂｏｏｋｓ」香肌小学校は「本処かはだ」と名付け、読書活動を通した地域コミュニティの場になっています。開館日は週に１日ずつ、午後の２時間です。

子どもたちが案内状を出したり、地域の方が子どもたちと一緒に授業を受けたり、地域の方に子どもたちの発表を見てもらったりと、各学校が開館日に合わせ、工夫した活動を企画しています。どの学校にもカフェコーナーが設けられ、地域の方の楽しみの一つにもなっています。

地域の方のリクエスト等に合わせて、雑誌や新刊図書を購入しています。寄付していただく本も増えてきました。また、団体貸出されている松阪図書館の本を借りたり、松阪図書館の本を取り寄せて借りたりすることもできるようになっています。

飯高中学校

まだ、スタートしたばかりの地域開放型図書館ですが、子どもとの交流や地域・保護者・ボランティアの方々の交流の場として、なくてはならないものになってきています。

宮前小学校

香肌小学校

令和元年度 図書館活性化推進事業のご報告

令和元年度の当協会による図書館活性化推進事業では、３館（※）が助成の対象となりました。それぞれの館から、事業のご報告をいただきました。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、３月下旬に予定していた名張市立図書館の事業は、中止となりました。そのため、名張市立図書館につきましては、事業報告に代わり、同図書館における取り組みについてご報告いただきました。

①絵本の楽しさ発見！

高田短期大学付属図書館　小野亜里紗

10月26日（土）本館で「絵本の楽しさ発見」というテーマでワークショップを開催しました。子育て中の方、保育に関わる方、絵本に興味がある方など25名の方にご参加いただきました。講師は育児文化研究センター研究員岩附啓子さんが務めました。講座では、絵本のしくみ、子どもの発達と絵本の関係、子どもの年齢に合った絵本の選び方や読み方、絵本を使って遊ぶおもしろさについての講演をしていただき、その中で、受講者の皆様に読み聞かせの実演もしていただきました。その後、グループに別れて「おおきなかぶ」の絵本を見ながらどのような工夫がなされているのかを受講者の皆様で意見交換をし、各グループの代表の方から発表をいただくなど、有意義な時間を過ごしました。ワークショップの間は、子育て中の参加者が講座に集中していただけるよう、保育士免許を持つ教職員と保育士を目指している学生とで託児所を用意し10名の子どもたちをお預かりいたしました。

ワークショップの様子

また、ワークショップに先立って、10月19日（土）、20日（日）の高短祭で、岩附先生の指導の下、絵本の魅力を伝える特別展示を行いました。飾りつけは図書館メイトのアイデアを活かして、見やすく本を手に取りたくなるような展示をしました。本学学生による手作り絵本などの創作作品展も同時開催し、２日間で２００名程度の来場がありました。

ワークショップ終了後約一か月間、図書館内で岩附先生に分類、選定していただいた絵本展示を行いました。

展示風景

②「tupera tupera 絵本ライブ＆BOOK PICNIC 2019」について

多気町立勢和図書館　林千智

開催予定日が台風のため延期、同日開催ができず、「tupera tupera 絵本ライブ」を10月14日（月・祝）に、「BOOK PICNIC 2019」を11月２日（土）に変更、ドキドキの開催となりました。

まず、「tupera tupera 絵本ライブ」です。開場時間前から長蛇の列。開演時間にはホールぎっしり、勢和図書館史上最高の５５０名。お二人のパワーに支えられ、絵本に歌と楽器を交えてのパフォーマンスやワークショップ、と大盛況の２時間。親子ファミリーも仲良し男子小学生チームも大人の方たちも終始、はじける笑顔と大歓声いっぱいのひとときでした。今回のライブに向けての準備段階では、お二人の絵本に向き合う姿勢や読み手（聞き手）に対する心遣いなど、たくさんのことを学ばせていただくことができました。

絵本ライブ

そして、「BOOK PICNIC 2019」。晴天に恵まれ、勢和図書館まわりの緑あふれるロケーションを思う存分満喫していただける1日となりました。延べ550名の方にお越しいただき、こちらも大盛況。魅力的な書店やカフェが出店して下さり、共催した私設ミュージアムや学生さんたちと共に、有意義な時間を共有することができました。

今回、ギャラリートーク「旅に出よう！」ではテーマに沿って各ゾーンの本を紹介しながらのガイド、「課題解決にはたとえばほら！ブックトーク」では、各方面のプロの方のお話と司書のブックトークというセッション（3本）を行いました。

多くの参加者の方、そして、書店さんや学生さんたちがこの2点について大きな評価を下さったことが、私たちにとって本当に嬉しい励みとなりました。

学生と BOOK PICNIC 2019 の様子

③名張市立図書館の展示コーナーについて

名張市立図書館　萩原大介

現在、名張市内には、公共施設等を活動拠点として、各種団体による多くの生涯学習活動が行われています。そうした中で、市民の誰もが、いつでも、どこでも、生涯学習活動に参画し、図書館資料の利用を促進する活動と市民活動の発表の場としての意義づけから、当館のラウンジに設けているのが展示コーナーです。

現在、名張市の小学校、中学校では、ふるさと学習『なばり学』が行われており、子どもたちは、名張の歴史や自然、誰もが住みやすいまちづくりについて理解し、学んでいます。今では子どもたちだけでなく、大人たちも、生涯学習を通じ、古より続く、ふるさと『名張』の文化を引き継ぎ、各種団体活動が盛んです。

当館では、こうした各種団体活動での展示の他、名張市郷土に関する多くの展示も行うとともに、郷土史家と連携した映画会も開催するなど、関連資料を展示しています。

そうした中、今年の2月は、関西に春を告げる東大寺二月堂「修二会（しゅにえ）」いわゆる“お水取り”で使われる「達陀(だったん)松明」の松明木を二月堂に寄進している、『伊賀一ノ井松明講』についての展示を行いました。「今回初めて知った」「聞いてはいたけど、とても分かりやすい解説だった」との声も聴かれ、遠方からの来館や、いつもの2倍以上の参加者があり、関連資料も多く貸し出され、普段あまり利用のない世代の方の姿も多数あり「次回の催しも楽しみにしている」との声を多くいただきました。

ふるさとである名張の自然や歴史、文化等の学びを深め、子どもも大人も、地域資源や人材を活用し、名張の風土を引き継ごうとする気持ちを醸成できれば、当館として嬉しい限りです。

展示の様子②

展示の様子①

研修会のご報告

第105回全国図書館大会三重大会

11月21日、22日に開催された、第105回全国図書館大会三重大会には、100名の三重県図書館協会会員にご参加いただきました。そのうちの2名の方に、参加された分科会の様子をご報告いただきました。

第105回全国図書館大会三重大会に参加して

皇學館大学附属図書館　山際稔

今回の三重大会は、2日間にわたり開会式、記念講演、分科会が行われた。2日目の分科会は、当初より大学・短大・高専部会の運営委員として、分科会のテーマ、事例発表者、内容等の選定に携わり、近年のニュースで取り上げられている大規模地震に備えた危機管理に関心があったため、第2分科会大学・短大・高専図書館分科会（1）（2）に参加した。

まず午前の部は、「震災と図書館活動」というテーマで行われ、この地域では南海トラフといういつ起こるかわからない地震に対応した内容であった。中でも、停電した場合は入退館システムから自動的に在館者のリストを出力し、リストを基に避難できたかの安否を確認している、また怪我人、事件事故発生時に職員が戸惑わないためにも、フロアチャート（職員用）の作成をしているなど、どの事例も大変参考となった。

第２分科会大学・短大・高専図書館分科会（１）の様子

午後の部では、「図書館における利用促進」というテーマで行われ、各館とも利用者が図書館に足を運んでくれるかなど、悩みを抱えながら工夫を凝らした取組の発表であった。岐阜薬科大学での取組は、テキストマイニングの手法を用いて、薬学生実務実習レポートに書かれた単語、患者さんとの会話におけるキーワードなどに分割し、出現頻度、相関関係の分析を行っている。自由記述にも関わらず、学生は病院及び薬局の実務実習内容を反映した内容を記載していることが、分析結果から読み取れることが印象的であった。

第２分科会大学・短大・高専図書館分科会（２）の様子

今回の研修に参加して、他の図書館職員にも情報の共有を図るなど、研修の成果を活かして、日々意識して業務を遂行したいと思う。

第4分科会児童サービスに参加して

明和町立図書館　森奈都子

ノートルダム清心女子大学児童学科教授で児童文学作家の村中李衣さんの基調報告が行われた。

第４分科会児童サービス（１）の様子

同じ本を読んでも感じ方とらえ方は人それぞれ違うものである。村中さんが月一連載していた物語が、連載中に読者と交流があったことで「書き手」と「受け手」として相乗効果があったという。

読書によって、読み手は物語を享受するだけでなく、その物語を読みながら自分の中で創造している。読書を介さず自分の意見を述べることははばかられても、自分はこのように読んだと言うことは主張できる子もいる。本を読むことをコミュニケーションツールと捉えることで読書の可能性が広がっていくのではないかと思われる。

本の「読みあい」をすることで、読み手と受け手の双方がひびきあい理解が増していく。そして読書が楽しいものだと生活に根付けば、年齢とともに不読率が上がっているという現状を打破できるのではないか。

読書習慣を形成するために未就学の子どもへの読み聞かせは有効であるが、読み聞かせばかりでは本を利用しているもテレビを見ているのと変わらず読書が受け身になってしまうため、学年が上がるにつれてひとり読みが出来るようにしていく必要がある。

そこで、図書館に読みたいと思われる本がそろっているか、図書館として名作も置きつつ鮮度のある棚づくりを心掛けることが、若い人の利用を促進させると考える。意識していきたいと思う。

特別講座

今年は第105回全国図書館大会三重大会が開催されたため、毎年開催している「基礎講座」「専門講座」「視察研修」をまとめ、1月28日（火）に三重県生涯学習センターにて「特別講座」を開催いたしました。「図書館の広報・PR」をテーマに、特定非営利活動法人男女共同参画おおた理事長坂田静香氏を講師にお招きしました。この研修には、37名にご参加をいただきました。参加された方の中から、ユマニテク短期大学図書館の長谷川あゆみさんにご報告をいただきました。

「図書館の広報・PR～人が集まる企画とチラシの作り方～」に参加して

ユマニテク短期大学図書館　長谷川あゆみ

今回の研修では、図書館員の企画力・広報力の向上のため、集客できるイベントとできないイベントの違いや、チラシ作りのテクニックなどを教えていただきました。

多くの図書館では毎年様々なイベントを開催しています。本学でも公開講座等を行っておりますが、この“集客”という問題は大きな課題でした。今回の講座はまさに今必要としている情報でしたので、大変勉強になりました。

人が集まらなかった時、つい言い訳をしてしまいがちですが、まず原因は「企画力」「広報・PR力」の不足であり、自分たちに問題があると気づくことが大事であると改めて感じました。

特別講座の様子

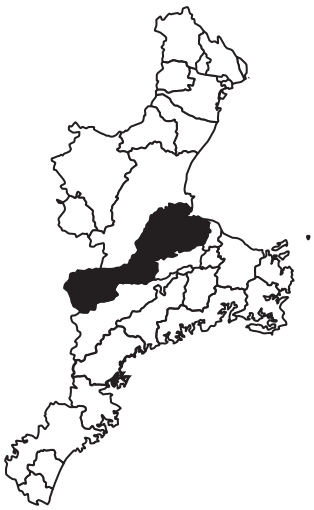
企画力向上ワークでは6グループに分かれて、実際行われたイベントのチラシ（5枚）を分析し、集客率ワースト1とベスト1を考えました。どのグループもワースト1は同じでしたが、ベスト1は意見がわかれました。結果として見えてきたことは、どんなにいいチラシを作っても企画が悪ければ人は来ない。広報と企画は掛け算でどちらかが0だと結果も0になってしまう。まず「企画」が大事であるということでした。

最後に大切なこととして“対象者を徹底的に絞ること”“対象者の心に響くゴールの見えるタイトルをつけること”“担当者の熱意と努力”であると教えていただきました。

今回の研修で学んだことを活かして、次回のイベントからはたくさんの人に興味をもってもらい、実際に足を運んでもらえるような企画作りをしていきたいと思いました。

グループワークの様子

新館案内



三雲みんなの図書館コミュカル

松阪市三雲公民館図書室は、平成31年4月3日に同じ地区の松阪市立天白小学校のコミュニティ広場へ移転、地域開放型図書館「三雲みんなの図書館コミュカル」としてリニューアルオープンしました。

天白小学校は平成30年度よりコミュニティスクール（以下CS）となりました。そのボランティアの方がコミュニティ広場（多目的ルーム約400㎡）の一角で学校図書室を整備し、残りのスペース（約280㎡）に開架蔵書約16000冊を配架しました。地域側と学校側は、それぞれの書架とアコーディオンカーテンで仕切られています。

開館日時は火～土曜日の午前9時～午後5時（正午～午後1時は休館）となりました。学校にいる間の天白小学校の児童には貸出し制限がありますが、休み時間の閲覧、授業時間内での調べ学習の利用も始まりました。貸出し希望が集中するとカウンターに長蛇の列ができることもあります。

児童書のコーナー

学校の図書は児童の図書委員が貸出し・返却業務を行いますが、カウンターが隣接していることもあり、当番の児童から問い合わせがある時には随時アドバイスもしています。

昨年の夏休みにはCSの「本となかよし部」と「学びのサポート部」の方々に、図書館の使い方についてゲームを通して学べる未就学児向けの親子イベント「図書館へいこう！」を企画・開催していただきました。来期は図書館移転1周年記念お話会のイベントも一緒に企画しています。

地域と学校の読書活動推進はもとより、様々な人と人との交流をサポートする場としても役立てていただければと思います。

一般書のコーナー　右奥は出入口

ブックエンド

『一遍上人と熊野本宮』

桐村 英一郎／著
はる書房

熊野市立図書館
岡田敏哉

時宗開祖の一遍上人が、熊野本宮大社で参籠し、熊野権現の神勅による熊野成道を会得した経緯や、熊野信仰を皇族・貴族から庶民にまで広めた神仏習合の歴史を紐解いています。神の国伊勢と仏の国熊野三山との関係を記し、聖地の第一は大斎原（本宮大社旧社地）と熊野の魅力も紹介しています。